

第13回 新みやしろ郷土かるた制作委員会 議事録	
日時	平成29年1月17日(火) 18時~19時45分
会場	宮代町役場 204会議室
出席	委員：田中委員長、関根副委員長、岡本、鈴木、青木、栗本、松本、石川 事務局：田中主査、小林主査 (敬称略・順不同)
欠席	青柳、浅倉
傍聴	なし

1 次第

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 審議
 - ① 絵札原画の選定結果について
 - ② 新かるたの普及活用方策について
- (4) その他
- (5) 閉会

2 議事

(3) 審議

① 絵札原画の選定結果について

決定事項

- 絵札原画作品の仕上がりを確認
- 札の外枠と丸囲みの配色を決定 (読み札=青色、絵札=紫色)

主な意見・質疑応答等

(1) 枠と丸囲みの配色：読み札

→ 読み札の外枠、丸囲みの配色を多数決で決定

(2) 枠と丸囲みの配色：絵札

委員 見やすさという視点で考えれば、コントラストの高い紫やピンク、オレンジなどが良いだろう。背景が緑色をしている絵が多いので、緑では同化してしまうと思う。

委員 目立つ色にすると、絵を壊してしまうという懸念もある。その点では、青が良いと思う。

委員 私は紫色が良いと思う。

事務局 埼玉県の郷土かるたは、原画の色に応じて2色を使い分けている。加須市の郷土かるたは、枠の色は単一色で作っている。ひらがなの丸囲みの位置も、他のかるたは四隅のどこかで配置しているが、宮代町は今回、当初から右上に指定して原画を募集しているので、それ以外の位置には設定しない。

委員 色の設定理由にも配慮するのであれば、紫ならば町の色ということで、進めやすいのではないかと。

委員長 それでは、宮代カラーでもある紫で異論がなければ、決定したいがいかがか。

全員 異議なし

②新かるたの普及活用方策について

決定事項

■絵札原画展の実施方法と表彰セレモニーの実施について決定

→対象＝採用作品46作品

※採用作品以外の作品展示については、十分なPR効果（集客効果）が期待できないという意見が多かったこと、審査結果に対する異論などにつながる恐れがあることから、行わないこととした。

→3月18日に表彰セレモニーを行う

主な意見・質疑応答等

●新かるたの普及活用方策について

- 事務局 ※資料2（新かるたの普及活用方策について）の説明
- 委員長 資料2をふまえて、皆さんのご意見を伺いたい。
- 委員 原画展のチラシに、かるた販売の日程なども記載する方向か。
- 事務局 新かるた本体のPRのチラシに、原画展の情報も掲載する、という形になるかもしれない。
- 委員 学校でかるたの販売なども行う予定か。
- 事務局 特に予定していない。販売などで学校に協力いただければ、ありがたい。そうした場面でも活用できるチラシを用意すれば、かるたのPRに便利に使ってもらえると思う。学校との連携についても、引き続き調査、検討したい。
- 委員 学校で販売する場合だけ、割引価格を設定することなども、検討しても良いと思う。
- 委員 販売価格は決まったのか。
- 事務局 初代かるたの販売額が650円なので、それを目安に設定したい。印刷経費などの制作経費を計算して、最終的に設定する予定。
- 事務局 原画展に展示する作品の基準について、どのような考え方をすればよいか、判断が難しい状況。予備選定を一つの基準とせざるを得ない、というのが現状。例えば、「優秀作品」という表現で作品を展示するのであれば、2次選定である程度得点したものの、などという基準が考えられる。ただ、そうなると、多くの作品を展示して、より多くの人の来場のきっかけとする、という当初の考え方とは離れてしまうが。
- 委員 そもそも話になるが、最終選考から外れた作品も展示する、という考え方は、何かに配慮しているのか。
- 事務局 絵札の選定過程の中で、得点が入った作品を対象とする、という考え方を、原画展の原案ではとっている。
- 委員 通常の美術展などでは、落選したものが飾られる場合は、何らかの理由づけが必要になると思う。それによって、選定結果の足を引っ張ってしまうことも考えられる。最終作品に対する選定理由などを付すことはできると思う。その程度で止めておいた方が無難ではないか。選定以外の作品も飾った場合に、他の作品の方が良かった、という指摘があった場合、その対応で困るのではないか。一般的な美術作品の選考では、審査結果に対する異論は受け付けない、選定理由は公表しない、ということが通例である。
- 委員 46作品だけにするか、応募作品全部にするか、のどちらかが良いのではないか。小中学校の競書展なども、作品をすべて貼り付けたうえで、優秀作品を決定している。原案のように、一部作品の展示とした場合に、納得性の高い理由をつくるのは難しいと思う。

- 事務局 まず、全作品の展示、ということが現実問題として考えにくいなかで、より多くの作品の展示方法について模索してきた結果が、現在の案となっている。一方で、その妥当性については、事務局としても疑問をぬぐいきれない面もあった。委員のご指摘のとおり、一部作品の展示を実施した際に、指摘を受ける可能性については危惧していた。
- 委員 採用作品のみの展示とした方が、やはり素直なのではないか。
- 委員 仮に、自分の作品が採用されて、進修館に飾られているとしても、見に行くというところまで行かないかも知れない。私ならば、見に行かないと思う。
- 委員 採用者を全員招待した表彰式を開催したらどうか。それであれば、かなりの確率で、参加が期待できると思うが。
- 委員 表彰式については、そのような話が過去に出ていたのではないか。
- 事務局 本委員会の初期段階では、新かるたを使った最初の大会の中で、表彰式を行うという話もあった。その後、話が具体的になっていないのは、かるた大会の運営上、表彰式を行うことが時間的に厳しいという点と、効果としても、十分なものが期待できるのか、という点について疑問が生じたため。ただし、独立した形での表彰式については、選択肢として考えうらと思う。
- 事務局 小中学生については、3月中に学校内でそれぞれ表彰と記念品贈呈を行う、という方法も検討していたところである。また、一般の採用者の表彰については、3月に開催する制作委員会内で表彰を行う、という方向で考えていた。しかし、ご提案いただいたような方法での実施も、考えられると思う。
- 委員長 それでは、ここまでの議論をまとめると、原画展は採用46作品に限定して行い、展示期間にあわせて、表彰セレモニーを、かるたにちなんだイベントなども盛り込みつつ実施する、ということではよろしいか。セレモニーの時期的には、3月18日あたりがよろしいか。対象者数を考慮すると、会場は大ホールになるだろうか。
- 事務局 会場予約も問題ないことを確認した。
- 委員長 それでは、3月18日午前中の表彰セレモニー実施ということで、決定したい。
- 事務局 ここで、書道連盟が開催する小品書展について、委員からご説明いただきたい。
- 委員 書道連盟の会員がそれぞれ分担して、新かるたの読み句を書の作品として制作している。3月に図書館ホールで開催するので、ぜひご覧いただきたい。制作委員会の位置づけは、資料提供や協力などという形で整理したい。
- 事務局 新かるたのPR関連では、このほか、役場の出前講座でのメニュー設定、地域で自主的に行われる高齢者サロンでのPRについて実施する予定。表彰セレモニーの実施企画案については、次回会議でご検討いただきたい。

(4) その他

- 図書館事業「郷土資料のデジタル化」について説明。
- 次回会議の日程について確認 2月21日(火) 18時～